

## 2024年 第43週（10月21日～10月27日）の感染症発生動向調査情報

### <今週の内容>

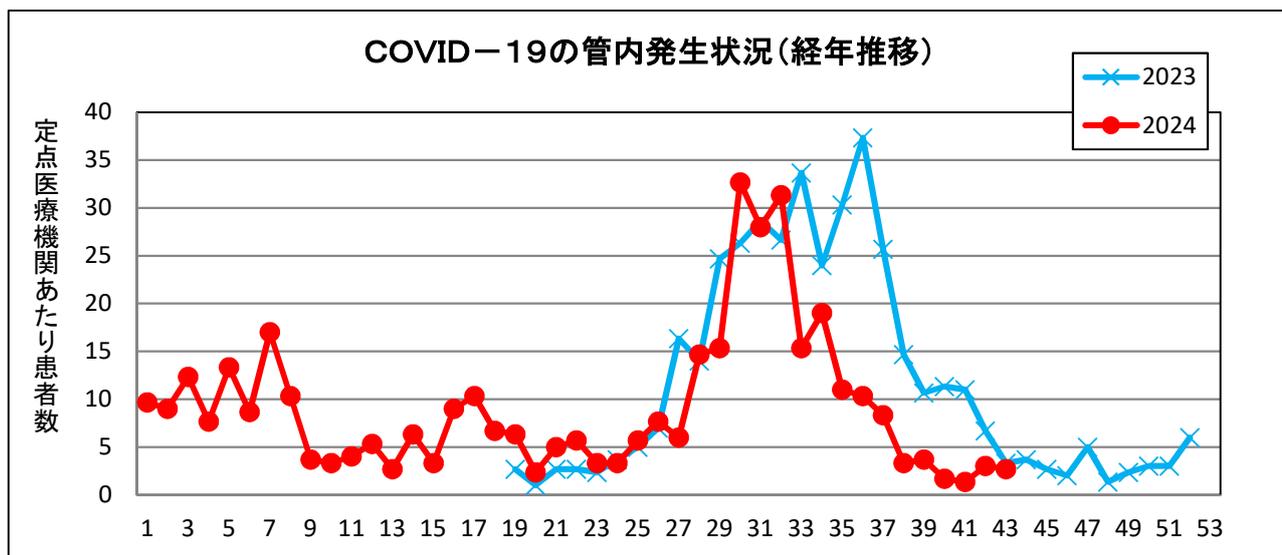
- 1 新型コロナウイルス感染症について
- 2 管内の感染症発生状況（新型コロナ以外のもの）  
手足口病が、依然、警報レベルとなっています。

#### 1 新型コロナウイルス感染症について

管内では、定点あたり報告数は今週2.67人（先週3.00人）で先週から減少し、兵庫県内の定点あたり報告数も今週1.30人（先週1.57人）となり、先週から減少しました。地域別では、福崎保健所管内が8.00人と最も多く、姫路市保健所管内2.89人、赤穂保健所管内2.83人となっており、年齢別では、10歳代が18%と最も多く、次いで50歳代が14%となっています。

また、県内の社会福祉施設等においては、今週1件（先週1件）の集団発生が報告されています。

県民の皆様には引き続き3密の回避、手指消毒、効果的な換気、マスクの適切な着用といった基本的な感染症対策をお願いします。



注) 2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は定点把握になりました。

### <感染症に関する情報>

#### ◆兵庫県ホームページ

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)に関する情報](#)  
[兵庫県感染症情報センター](#)

#### ◆厚生労働省ホームページ

[新型コロナウイルス感染症について](#)

#### ◆国立感染症研究所ホームページ

[新型コロナウイルス\(COVID-19\)関連情報ページ](#)

#### 2 管内の感染症発生状況（新型コロナ以外のもの）

- (1) 管内の全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症）  
第43週は、報告はありませんでした。

(2) 定点把握感染症（指定された医療機関から報告を求める感染症）

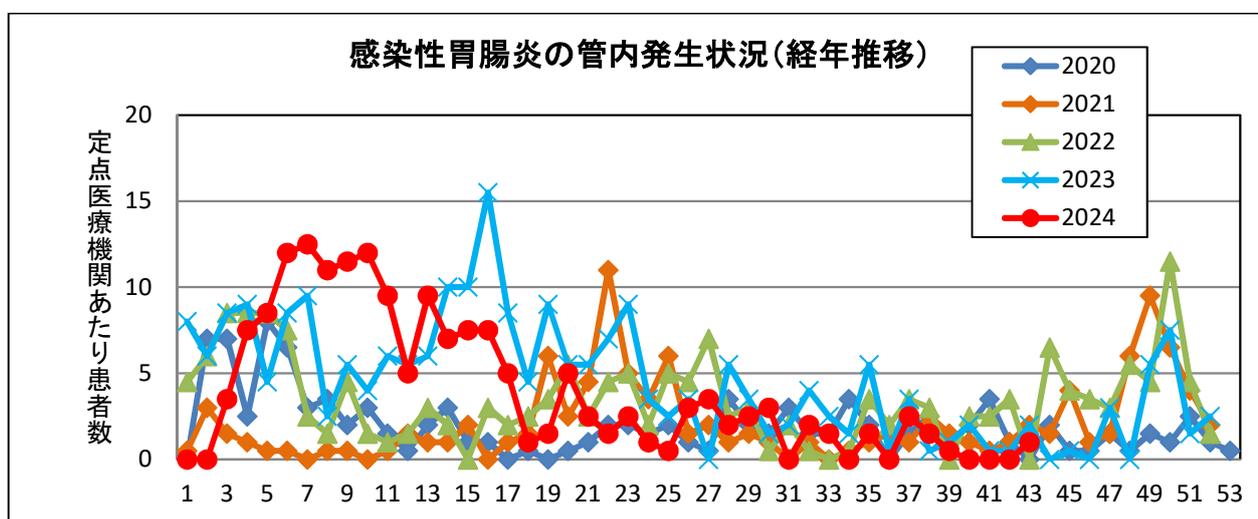
(2024年43週) ※定当：定点あたり患者数

インフルエンザ		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		COVID-19	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	0.5	10	5	-	-	-	-	8	2.67

ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	...	...	...	...	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

管内では、感染性胃腸炎の定点あたり患者数が1.00人で、先週（0人）から増加し、兵庫県でも3.40人で、先週（3.18人）から増加しました。

トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗うようにしてください。また、便や嘔吐物を処理する際は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗ってください。カキなどの二枚貝を調理する際は、中心部まで十分に加熱してください。



<感染症に関する情報>

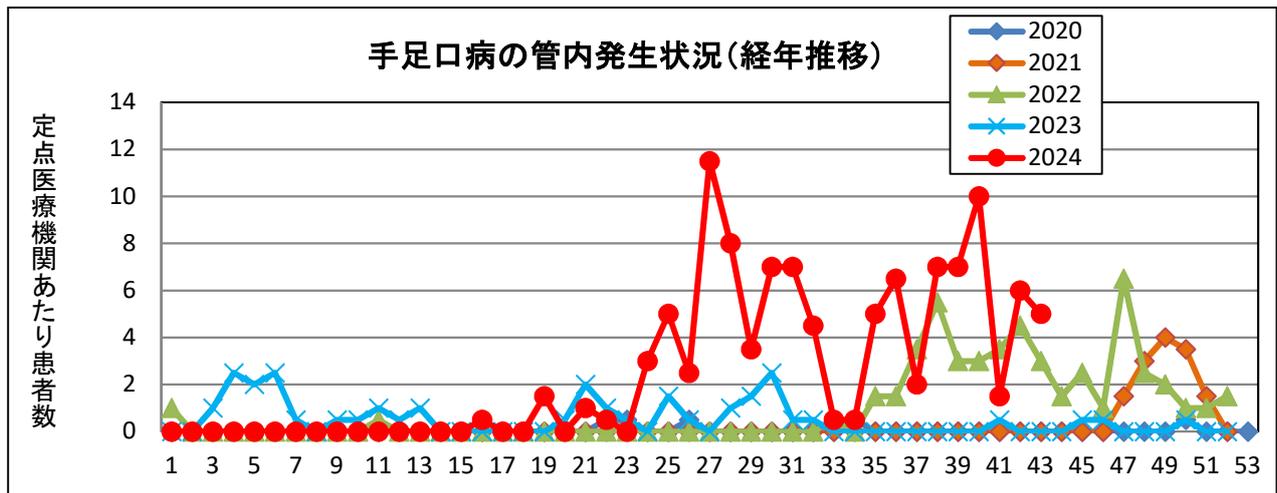
◆兵庫県ホームページ

[感染性胃腸炎\(ノロウイルス等\)について](#)

◆国立感染症研究所ホームページ

[感染性胃腸炎とは](#)

また、管内の手足口病の定点あたり患者数は5.00人で、先週（6.00人）から減少しましたが、終息基準値（2.00人）以上であり、依然、警報レベルとなっています。また、兵庫県でも5.01人で、先週（5.50人）から減少しました。手足口病は、手のひら、足の裏、口の中、おしりなどに米粒大の小さなもりあがった発疹が見られます（1週間程度で治ります）。ときには手や足の甲にも出ることがあります。よだれも増え、37～38℃の発熱が1～3日程度続くことがあります。手足口病のウイルスは、おもに便や鼻汁などの分泌物のなかにおり、手を介して口に入ることで感染するので、用便の後などはきちんと手洗いすることが大切です。



<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[夏の感染症にご注意を!](#)

◆厚生労働省ホームページ

[手足口病に関する Q&A](#)

◆国立感染症研究所ホームページ

[手足口病とは](#)

また、管内のマイコプラズマ肺炎の定点あたり患者数は 1.00 人で、先週 (2.00 人) から減少し、兵庫県では 3.57 人で、先週 (2.43 人) から増加しました。国レベルでは、基幹定点医療機関当たりの週毎の報告数が、令和 6 年第 23 週あたりから急激に増加し、現行の調査手法となった平成 11 年以降最も多い状況となっています。マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという細菌による感染症で、発熱、倦怠感、頭痛、咽頭痛などの症状が出始めて、数日後に咳が出てきます。新型コロナウイルス感染症のように、咳やくしゃみの飛散から感染が広がる、いわゆる飛沫感染が主体です。潜伏期は 2~3 週間で、家族内もしくは職場内などの小集団でしばしば広がります。感染を予防するためには、マスク着用、換気などを行い、あわせて、石けんによる手洗いやアルコールによる手指衛生も行いましょう。

<感染症に関する情報>

◆厚生労働省ホームページ

[マイコプラズマ肺炎](#)

◆国立感染症研究所ホームページ

[マイコプラズマ肺炎の発生状況について](#)